
機動戦士ガンダム ガンダムエクストリームVS イクスの野望

Mr . ガンダム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダム ガンダムエクストリームVS イクスの野望

【Nコード】

N9168R

【作者名】

Mr.ガンダム

【あらすじ】

人類が滅びた太陽系——そこに、それはいた。

すべてのガンダムを過ちの歴史ととらえる人工知能・・・ex-（イクス）。

そのex-が、ガンダムを滅ぼすため、すべてのガンダムを同じ場所に集め、戦わせる。

ガンダム同士による終わりのなき戦いが始まる！

争いの幕開け（前書き）

いきなり戦いが始まります。

エクストリームバーサスが元ネタなので・・・

争いの幕開け

人類が滅びた太陽系——そこにそれはいた。

e x - (イクス) それは、地球再現用データベースを管理していた。

e x、は、考えていた。

「過ちと悲しみに満ちた絶望の歴史」・・・すべてのガンダムを、破壊する必要があると——

地球の再現とトライ& a m p ;エラーによる歴史の最善化を繰り返し、「完全で理想的な宇宙」を新たに創造するために・・・

「そつだ・・・奴らを戦わせればいい・・・」

時空を操り、今までのガンダムシリーズの人物や機動兵器を地球再現用データベースに送りこむ・・・

たったそれだけで「過ちと悲しみに満ちた絶望の歴史」を破壊できる。

完全で理想的な宇宙を創るため、そいつはそれを実行した。

ガンダムが、集う――

漆黒の宇宙を、緑色の粒子をまき散らしながら、2機のMSが飛翔する。

「刹那、敵を確認した」

ケルディムガンダムに乗っているロックオンから通信が入る。

「了解」

ダブルオーガンダムに乗っている刹那が応答する。

刹那が言うと同時に、モニターに小型ウィンドウが開く。
「見たこともない機体だな・・・ティエレンの新型か？」

「少なくとも、太陽路はつけていないな」

GNドライヴ特有の光の粒子が発生していない。

緑の機体・・・まるい頭。刹那がティエレンの新型と思った理由はおそらくモノアイ——そのほかは、ティエレンに似ているところは特にない。

相手が、手に持っている銃を、こちらに構える。

——手に持っているのは・・・マシンガンか？まあ、いい。どうやら敵みたいだな。相手の射程に入る前に、狙い撃つだけだ。

ロックオンは、ライフル型コントローラーを取出し、モニターにつる機体に照準を合わせた。

「狙い撃つぜえ！」

いうと同時に、構えたライフルから粒子ビームが放たれ、一直線に敵に向かって飛んで行った。

緑色のモビルスーツは、避けようと機体を傾けたが、右足にビームが着弾し、爆発の炎を上げた。

煙を上げる右足を見ながら、緑色のモビルスーツ、ザク改のパイロ

ツトの青年、バーナード・ワイズマンは、舌打ちをし、モニターを見た。

そしてすぐに、レーダーに目を移した。

（確かに、モニターには映っている。だが、レーダーにうつらなかつた・・・どういうことだ・・・？）

そして、はっとしたようにモニターを見た。
スクリーンに大きく敵機体を映し出す。

「あれって、ガンダムの新型！？ザク一機でガンダムを相手にできるのかよ！？」

資料で見たガンダムとは違うが、確かにガンダムだ。

あんなのと、戦ったら、無事では済まないだろう。いや、生きて帰れないかもしれない。

何とかして、逃げなければ...

バーニイは頭の中で、逃げようとする意志を振り払い、ザクをガンダムに向けて走らせた。

「でも、今は俺がやらないと！」

「おいおい、敵さん、あきらめてないみたいだぜ？」

ロックオンとしては、破壊する気はないにしても、相手を中破、戦闘不能にさせるつもりだった。

だが、相手は自分の攻撃の直撃を避け、片足を失っても、こちらに向かってきている。相手もそれなりの覚悟があるということだ。

ロックオンは、目の前のコンソールを操作し、六基のうち、太陽炉部分に取り付けてある四基のGNライフルビットを相手に向けて飛ばせた。

「な・・・！？」

片足を失ったザクを取り囲むように、四つの砲塔がザクに銃口を向けた。

「う・・・うわぁ！？」

射線から逃れようとバーニイがザクを動かすとほぼ同時にGNライフルビットから粒子ビームが放たれ、ザクを爆炎が包み込んだ。

「いけるぜ、この新装備！」

GNライフルビットをもとの位置に戻し、ケルディムの体制を整えた。

「ロックオン！！まだだ！！」
刹那からの通信が入る。

直後、ガガッという低い音が響き、機体に振動が走った。

ザクが、煙をかき分け、マシンガンを連発しながらこちらに向かってくる。

左手を失い、右足はなく、左足も膝から先がない、そして顔半分は破壊されている。

その状況でも、相手はこちらに向かってくる。
残った右手でマシンガンを連発しながら向かってくる。

だが、片手では不安定らしくその弾もケルディム、ダブルオーをと

らえることなく、宇宙へ消えてゆくのみだ。最初の数発はまぐれだったのか。

「なんだコイツ!？」

『ゼンポウチュウイ!ゼンポウチュウイ!』

相手の気迫に押されていたのか、ハロの警告にロックオンが我に返った時には相手の接近を許していた。

「あっちへ行け!」

右手のマシニングンを投げ捨て、ヒートホークを振り上げる。

「もらった!」

ザクのヒートホークを振りおろしたが、ロックオンはぎりぎりのところでGNビームピストル?でヒートホークを受け止めた。

「クソッ!」

ロックオンは、ザクを蹴り飛ばし、GNビームピストル?の銃口を体制のくずれたザクに向けた。

「し、しまった！うわああああ！！」

ロックオンが引き金を引くより前に、ザク改とケルディムの間をビームが通り抜ける。

続いて、2、3とビームが上から降ってくる。

「増援か！？」

ダブルオーが上を向く。モニターに映ったのは……一本の角を持つ純白のモビルスーツ。

「ここを戦場にしていいのか！？あんたたちは！？」

バナージ・リンクスは、ケルディムガンダムに照準を合わせ、ビームマグナムを撃った。

「くそつたれ！」

ケルディムを動かし、何とかビームをよけたロックオンだが、先ほどの流れ弾が小惑星に着弾し、着弾した小惑星が一撃で破壊されたところを見ると、かなりの威力だろう。

ふと、ザクの方を見ると、すでに相手は戦線から離脱しており、遠くにザクらしき影が見えるだけだった。

「お前の相手は、この俺だ！」

刹那がダブルオーを操り、ユニコーンに体当たりをした。

バランスをくずした純白の機体がこちらに銃口を向ける。

銃口からはなたれたビームをかわし、ダブルオーはお返しとばかりに、GNソード？ライフルモードで相手を撃つ。だが、ユニコーンは盾で粒子ビームを防ぎ、ダブルオーに体当たりをした。

「ここから・・・出ていけええええ！！！」

ユニコーンの出力を上げ、バナージはダブルオーをあたりを飛んでいる資源衛星にたたきつけた。

「う・・・あつ・・・！！！！」

衝撃で、肺から空気が抜け、足りない酸素を集めようと大きく深呼吸をするが、うまく呼吸ができない。

「刹那！のやるお！！」

ケルデームがスナイパーライフルでユニコーンを撃つ。粒子ビームはユニコーンの肩をかすめ、宇宙の彼方へ消えていった。

「くっそお！何であんたたちはそんなに戦争したがるんだよ！！」

相手にも聞こえるようにバナージは通信回線を開いて叫んだ。返答は来ないと思っていたが、相手から通信が返ってきた。

「戦争を根絶するのがソレスタルビーイングだよ！！」

ロックオンが、叫んだ。

「そんなのって・・・」

バナージが言い終わるより前に、回線に何者かが割り込んできた。

「ハハハハハハハ！戦争を戦争で止める…！？片腹痛いわ！！」

直後にその通信を発したMSだと思われる機体がユニコーンを突き飛ばした。

「調子は良好お！このターンXが引導を渡してやる！シャイニングフィンガーアアアア！！」

ギム・ギンガナムの乗るターンXの手からユニコーンに向けてエネルギーが出された。

ユニコーンは盾でシャイニングフィンガーを防ぎ、損傷は受けなかったものの盾を失ってしまった。

「三千年待った夢が叶う、実戦の世が来たとなあ！ハハハハ、フハハハ、ウハハハハハ！！」

ギム・ギンガナムが吠えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9168r/>

機動戦士ガンダム ガンダムエクストリームVS イクスの野望

2011年10月8日21時09分発行